

講義名	経営組織論 A		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	調整中 / 李 東浩		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限	授業形態	
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース / 2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2019年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2019年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース / 2019年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2019年度 人間社会学部 観光学科 /		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

本授業は真正正銘の双方向・多方向的な授業である
 本授業は独自開発した「ファイブ・モジュール」考える学習型授業教育法を実施する
 本授業の実施方法の詳細について、https://ryuka.repo.nii.ac.jp/ 『高等教育推進センター紀要 第2号』以下の論文を参照してください(全文無料ダウンロード可)。李東浩(2017)『学生心を掴む生き字教育「教学双方の意識転換によるアクティブラーニング」』『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第2号 pp.75-104(30頁)
 ちなみに、本ゼミの実施方法の詳細について、以上同様に 第3号、以下の論文を参照してください。李東浩(2018)『学部ゼミ運営に関する一摸索「楽しく頑張る」から「ひとつくり」』、『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第3号 pp.1-19(19頁)
 単位だけ欲しい学生・自信のない学生は履修を勧めない
 真面目な学生・本気に勉強の意欲がある学生は強く勧める
 毎回、面白いビデオがある
 毎回、楽しいレスポンス問題回答がある
 毎回、討論時間と発表時間がある。真正正銘の双方向・多方向的な授業
 先生だけからの学びではなく、学生同士が互いに勉強できる革新的な学びの仕組み

組織は我々人間の個人的な能力の限界を克服するために形成されるものであり、それをもってこそ人間社会の進化が実現された。
 「組織の時代」である現代をよりよく生きていくためには、組織というものを理解することが不可欠である。組織論は、我々の日常生活に密接に関わる企業をはじめとした様々な組織を研究対象としている。本授業は、組織論に関する基本理論、概念ならびに基本的な考え方、知識と能力を身につけることに寄与する。

到達目標

知識・技能の観点：
 本授業は、学修するものにとって当然知っておくべき知識と技能を習得できる内容になっている。
 思考力・判断力・表現力等の能力の観点：
 基本的な理論を紹介するだけでは面白くない。毎回の授業にビデオがあり実際の組織をも取り上げるので、理論と実際とをバランスよく理解できる。ただビデオを単なる見るだけで終わるのではなく、考え、判断、討論、発言、考え直し、まとめ、といった一連の仕組みで、毎回知識と能力が身につけることを実感できる。
 主体的な態度の観点：
 履修生は、本授業を学修することによって、能動的に主体的に勉強することの習慣を養成できる。

日常に組織に触れたり、企業や組織に関する新聞記事を読んだり、ニュースを聞いて経営組織的な側面から評価したり、レポートにまとめることができる。
 また、本授業で得られた組織論の理論とケースの知識・能力を身につけ、初歩的な組織分析を作成できる。

提出課題

毎回、レスポンスによる課題提出がある。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

毎回、前回のレスポンス課題を解説する。

評価の基準

期末試験：原則100%。
 ただし、以下の配慮措置がある。
 警告私信・自由出入など迷惑行為・不正行為は毎回マイナスに評価する。
 授業参加の質量、討論、発言、優秀なレスポンスなどはプラスに評価する。

履修にあたっての注意・助言他

先輩からの以下の意見を是非参考してください。
 1. 「五感に触れる画期的な授業」： 充実な内容、効率的な進め方で知識と能力を身につけられる！
 2. 「この授業を1つの企業とすると、CEOに李先生で社員が私たち生徒だとすると、社員に意見を場を与えて、それを共有し、すぐに実行する。優良企業だとします。モチベーションがとても高く維持できています」
 3. 「いま4回生だがもっと早くこの授業に出会いたかった」： 知識そのものだけではなく、知識を獲得する姿勢と方法を学べる！
 4. 「単位を取ることはとても大切ですが、この授業では、それだけのための授業ではないと私は、強く思います」

教科書	『よくわかる組織論』	田尾雅夫	ミネルヴァ書房	3080	4623056481
-----	------------	------	---------	------	------------

プリント資料及び参考文献

1. レジメ(=プリント)等資料は必ず各自事前に RYUKA Portal からダウンロードと印刷して教室まで持って来ててください。早めにダウンロード・印刷を済ませてください。
 2. 授業はPPTとレジメ・資料、映像、討論で進む。レジメには穴埋めが相当設けられ、PPTと確認しながら記入してもらう。
 3. 参考文献：
 田尾雅夫 著(2012)『現代組織論』勁草書房(311頁) 4326602465
 角野信夫 著(1998)『アメリカ経営組織論』文真堂 増補版(303頁) 4830942894

授業計画

先輩からの以下の意見をも是非参考にしてください。
 本授業の履修を勧めない3つの理由
 1. 毎回出席し授業まじめ文(レスポンス)を提出 結構大変、面倒くさいかなあ。
 2. 授業内容も多く教室紀律も厳しい 私語・居眠り・携帯弄りなどは不可能に近い。
 3. 期末試験は難しい 結局、真面目でないと単位を取る確率は低いかなあ。

注：()内はビデオ内容である
 1 イントロダクション(巨大ICT企業組織ソフトバンク)
 2 組織の概念(日本マクドナルドの逆転)
 3 組織の環境適応(西武ホールディングスの復活)
 4 ミクロ組織論：モチベーション(残業なくす働き革命)
 5 ミクロ組織論：キャリア(ファミマ大改革を率いる男)
 6 ミクロ組織論：良い組織悪い組織(破綻した温泉旅館を再生)
 7 ミクロ組織論：グループ・ダイナミクス(映画一部：12人の怒れる男)
 8 ミクロ組織論：リーダーシップ(100円シヨウブ)
 9 ミクロ組織論：意思決定(無印良品の中東クウェート進出)
 10 マクロ組織論：組織デザイン(日本の病院組織)
 11 マクロ組織論：組織文化(有馬温泉の魅力を引き出す)
 12 マクロ組織論：組織戦略(特別優良スーパ-成城石井)
 13 組織変革：危機管理(家具王者ニトリの破天荒経営)
 14 組織変革：人的資源管理(国際教養大学AIUの人材育成)
 15 組織変革：理論と実際(日本アバートの強み)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)
 イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
 ウ：ディスカッション、ディベート
 エ：グループワーク
 オ：プレゼンテーション
 カ：実習、フィールドワーク

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回、「知識は力になる」「能力は貯まる」ことを実感できる。
 だから本授業は、他のたくさんある授業のように、期末だけで猛勉強することで期末試験による一発勝負することではない(人生も同じような状況だろう！つまり人生も基本的に一発勝負ではなく、長年平日の積み重ねた努力こそが大事！)。
 指定教科書が「入門」と書いているが、それほど簡単ではない。今後大学院進学や職場などの場合にはさらなる熟読・精読は必要であるが、学部のレベルではまず気軽に一読・通読しておきましょう。いうまでもなく毎回のプリント(事前配布)を予習・復習することは大事だろう。
 興味と余力があれば、授業の指定する参考文献も読んでほしい。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義を聞くだけではなく、考えてグループワークで喋ったり、発言をする。

実務経験の有無及び活用

映像を見るだけではなく、メモしたり分析して、レスポンスに回答を出し、発言をする。

備考

学生による評判が高い本授業は以下の特徴があるので、真面目な心構えがあれば是非一度体験してみませんか。
 通り甲斐のある授業(そうか！これこそは大学らしい授業だ！)。
 静かで受講できる環境(私語ほとんどない！)。
 退屈ではない(退屈の時間さえもない！)。
 みんな一緒に互いに勉強する(自力・他力、皆の力を感じろ！)。